

バリと日本の橋渡しをしたい

インドネシアから来日したグデさんに
日本での1週間の感想を聞いた。

グデ・ステイルタさん



交流プログラム概要

		内容
10/6	日	到着
10/7	月	オリエンテーション、日本語講座
10/8	火	イオン幕張博物館、味の素川崎工場、AGC ショールーム
10/9	水	ホンダ狭山工場、パナソニックセンター、東京スカイツリー
10/10	木	凸版印刷・印刷博物館、日本語スピーチ発表会
10/11	金	早稲田大学：日本文化体験、東京ディズニーランド
10/11	土	自由行動
10/12	日	帰国（予定）

——日外協の国際交流事業では ASEAN10 カ国の若者たちが1週間、日本に滞在する。

ASEAN の同世代の人たちと友達になれたのが一番良かったです。みんながそろったときは日本語でコミュニケーション。こんな経験初めてです。みんな個性的で、同じ ASEAN でもずいぶん違うんだと思いました。



交流プログラム初日は日本語講座から（講師：石川晶子先生）

——グデさんが今回の滞在で一番良かったのは企業訪問だという。工場やショールームを見学し説明を受けた。

日本の代表的な企業へ行き、会社の歴史や考え方などがよく分かりました。企業だから売り上げや利益を追求するのは当たり前です。でも、それだけではない。どんなに時代が変わっても仕事を通して社会に貢献する姿勢を貫いていることにとても感動しました。



味の素川崎工場でかつおぶし削りを体験



ホンダ狭山工場見学

——10月10日(木)に行われた日本語スピーチ発表会、グデさんのスピーチタイトルは『夢をつかむ踏み台としての努力』。



福澤諭吉の胸像と (慶應義塾大学 三田キャンパスにて)

福澤諭吉の生き方と言葉に挑戦する勇気をもたらした自身の体験についてスピーチしました。緊張したけど不思議なことに、みんなをがっかりさせてはいけないと思うと「よし、頑張ろう！」って。でも、終わったらノドがカラカラ(笑)。



早稲田大学国際学生友好会(WIC)の協力で日本文化体験

——帰国予定日を台風19号が直撃。フライトがキャンセルになり、グデさんの帰国は結局3日延びた。

成田空港ビルで一夜を過ごすことになりました。キンさん(ラオス)、ボパーさん(カンボジア)、リンさん(ミャンマー)、そしてリンさん

の友人の山縣佳織さんと。雨と風だけかと思ったら、突然大きな地震が来てみんなびっくり。それでも、仲間がいて心強かったです。夜が明けて太陽の光がまぶしかった。

——国際交流基金によると、インドネシアの日本語学習者数は約71万人、中国の100万人に次いで多い。日本語スピーチ・コンテストを勝ち抜くのは至難の業だ。

まず、バリ島で地区予選が行われます。3度目の挑戦で地区予選を突破し、ジャカルタの本戦で優勝することができました。バリからは2004年以来、私で2人目。実は04年の優勝者の方に日本語スピーチを指導してもらったんです。バリの大学で日本語を教えているイ・ワヤン・ヌリタ先生です。授業が夜の9時半に終わった後で。時には自宅に呼ばれ晩御飯を食べさせてもらいながら。先生にはとても感謝しています。



イ・ワヤン・ヌリタさん(左 2004年、右 現在)
“当時のスピーチのテーマは「私と合気道」でした。合気道の精神のおかげで、学業も続け、博士号を取ることができました。合気道も1995年から現在までずっと続けています。”

——グデさんは9月に大学を卒業して、バリ日本語補習授業校で働く。将来は観光産業に携わりたいという。

バリと日本の橋渡しをしたいです。バリのすばらしい食文化を日本人たちにもっと知ってもらおうと同時に、日本をバリの人たちに紹介する。そのためには、何よりもまず気持ちを伝えられなければなりません。大事なものは人と人のつながりだと思っています。

(10月15日、日外協にて。聞き手：日外協・須藤)